

9. 分ゲツ初期

この米作りでは、活着が良く、分ゲツも順調に進むのですが、元肥をせず 地力だけで作って来たので、葉が広がらず、色も明るい黄緑色で、慣行農法で元肥を効かせた稲の葉が伸びて広がり、濃い緑色になっているのと 全く違います。また細植えですから、株の茎数も多くなく、地上部の初期の生長は寂しく見えるのが正常です。

よその田圃と比較して不安になりがちですが、約1ヵ月間ほど(分ゲツ肥まで)は、チッソ追肥をやったりしないでください。

米作りの前半は茎葉よりも根を観察したい期間です。1株掘り取って見ると、草丈よりも根のほうが長く、深く伸びていて、素晴らしい根張りが確認できます。

水稻の根には土中の酸化鉄(さび)が纏い付いて赤くなります(田んぼによっては赤くなりませんが、異常ではありません)。しかし根の力が強ければ、全体が赤いのではなく、根の先端3~5cmは白く太い部分があるはずで、ここが本当にはたらく大事なところ。また太根(冠根)からヒゲ状の枝根(二次根)がたくさん出ているはずで、

慣行農法で元肥が効いて葉が濃緑色の稲では、草丈のわりに根が短かくて弱く、下層へ伸びません。またヒゲ状の枝根が消耗して少なくなっています。とくに株の真下の部分が黒く変色して悪臭がする場合は、土も腐敗しかかっています。

チッソ肥料が効いている状態(田水のEC=0.4以上)では、根が伸びずに浅くなり、葉が伸びてしまい、頭でっかちの生育になって、後々軟弱で倒伏しやすくなります。チッソ肥料が切れている状態(田水のEC=0.1)なら、稲は葉よりも先ず根を伸ばします。初期には根を、耕土層いっぱい深く、地盤に食い込むまでしっかり張らせておくことが、その後の生育の基本作りとして最も大切ですから、初期はチッソ肥料を効かせずにスタートし、地力でじっくりと育ててください。

▼葉色板の見本(カラースケール)



田植え後 20日 (出穂70日前) の比較



通常の田圃
葉色 5~5.5
5本植え
現在13本/株



カルテック栽培
の田圃
葉色 2.5
2本植え
現在4~7本/株

田植え後 35日 (出穂55日前) の比較



通常栽培
葉色 5

カルテック栽培
の田圃
葉色 3